

ペルシャ (イラン、EP) 旅行記

JA3IVU 北井 十生

今年のGW (4月 29日から5月 6日まで)にペルシャに行ってきました。

当初の予定では関空からエミレーツ航空でドバイ経由のテヘランへの計画でしたが5月 2日発のツアーは参加者不足で成立せず、さてどうするかといろいろなツアー見たところ、4月 29日 成田発のツアーが催行するとのことでしたので早速に申し込みました。そうなる成田までどうやって行くかということで予約するとJAL便は満席、ANA便を予約しました。

荷物を持って家から伊丹までと成田の第 1ターミナルからイラン航空の第 2ターミナルまでの移動すること考えて4月 26日に宅配便で成田第 2ターミナルまで送りました。これで移動が楽になりました。

4月 29日 朝 6時に家を出て、天王寺から空港バスで伊丹へ、ANAで成田へ、着いたら朝の 9時 10分、集合時間の 12時半まで 3時間あまり さてどうしようかと幸いにもマクドのコーヒー券があったので成田の第 1ターミナルと第 2ターミナルの各店で時間つぶし。宅配所で荷物を受け取り 12時に集合場所へ、チケットをもらいイラン航空のカウンターへこれまた長い列がなかなかチェックインが始まらない。約 1時間かかってチェックインを行い、再集合に時間があったのでカード会社のラウンジへここで最後のアルコールを飲みました。(機内及びイラン国内では一切アルコールが出ない。)

IR801便 (NRT - PEK - IKA)で席は非常口の前にしたので席の前が空いていますので足が伸ばせます。そこまでは良かったのですがトイレの近くなので男のイラン人が 3- 4人集まってペチャクチャうるさくて眠れません。それにこの飛行機 B747- SP というめずらしい機体。おまけに足下にすきま風が入り頭熱足寒これまた眠れない。成田 - 小松 - 島根半島 韓国上空を経て北京首都国際空港に着陸。北京で中国人が降り、イラン人が乗ってきた。機内サービスであるはずの音楽、映画がない。まああってモイランの音楽と映画とのこと。

23時 30分ころ無事 テヘラン ホメイニ空港に到着し 入国審査を経て 荷物を受け取りホテルへ 寝たのは 3時ころだった。

4月 30日、朝は遅めの出発 パーレービ時代の離宮「サダバート宮殿」「ペルシャ絨毯博物館」「ゴレスタン博物館」「イラン考古学博物館」ここでは普段は公開していない「黄金の部屋」へ。紀元前のものとは思えない輝き。やはり「金」はすごい。この国の女性も男性も東洋人 (日本人、中国人、韓国人の区別はつかないらしい)と一緒に写真を撮る希望する。

なにか片言の英語でしゃべっている女学生にかこまれてしまった。日本では絶対のない光景だ。

5月 1日、国内線でテヘランからシラズへ。これまた乗るのに遅れ、動き始めてからなかなか離陸しない。結局 1時間ほど滑走路の端で待たされた。そのおかげで午前中の観光が出来ず。到着するな!昼食へ。詩人と庭園の街「ハーフェズ廟」と「エラム庭園」へ ここでも女学生に大もて。「ラムゼ廟」はお葬式があって入りなかったので明日になった。

夕方、「バザール」へ。いろいろなものが売っている。ここで「江坂」からきた若い 2人づれに出会った。よくまあ 2人できたものだ。ガイドブック「地球の歩き方」だけできたぞうだ。

5月 2日、昨日入れなかった「ラムゼ廟」へ 中に入ると天井から壁から一面小さな鏡で一杯。その後 世界遺産 アケメネス時代の重要な儀式するため都 (紀元前 551年 ~ 331年)「ペルセポリス」へ 中は広く影になるものはないので晴天で暑かったらたいへんなどころだ。幸いにもそう暑くなかったのでゆっくり観光ができた。「レリーフ」と列柱」がきれいに保存されている。

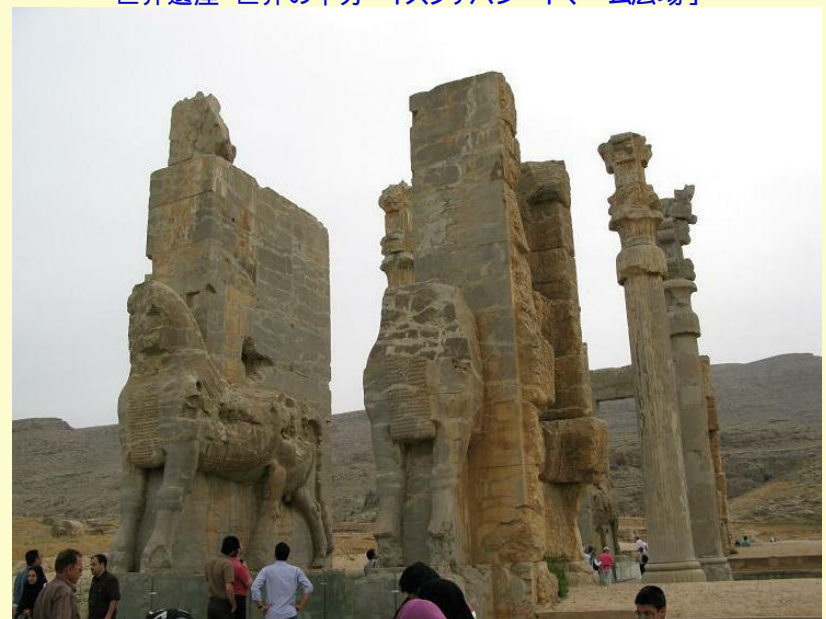
ここを観光中に携帯電話に日本の「大阪国際交流センターのパンジー」から着信した。5月 9日の月例会のメニューについてだった。

世界中、どこにいても通話が出来ると便利な世の中だ。

その後、「サグジェ・ロスタム」アケメネス時代の王の墓へ。昼食後、アケメネス時代の最初の首都であった世界遺産「パサルガダエ」とにかく広い 遺跡が散らばっている。花がきれいに咲いている。「キュロス 2世」の墓は石を積み上げた立派なものだ。その後 バスは「砂漠の中」途中にある街には緑、畑には小麦、大麦が「走る走る やっと「ヤズド」のホテルに着いたのは夜の 9時ころ。それから遅い夕食。このホテルは街の



世界遺産 世界の半分 イсфаハン イマーム広場」



世界遺産 「ペルセポリス」

外にあって4部屋づつが一つの建物になっている「コテージ風」聞こえはいいが朝起きてまわりを見るとほとんど郊外だった。朝から「沈黙の塔」へ「ゾロアスター教徒」の「鳥葬（風葬）」の場所。1930年ころまで実際に使用されていたらしい。高台にあるので懸命に登った。「1500年以上前から絶やすことない聖火があるゾロアスター教寺院」「ジャモスク」「氷の博物館」へその後、「イスファハン」へ 途中 イランの一般家庭に訪問 きれいなお宅で一度に33人も入れる部屋がありました。我が家ではとても無理です。

ここイスファハンでのホテルは街の中心部。この街は16世紀の「サファヴィー時代」に首都になった。ペルシャ芸術の繁栄を極め「Esfahan Nesf-e Jahan」「イスファハンは世界の半分」という賞賛を受けた。この街の観光は「アルメニア正教 バンク教会」から始まり「マスジェド・ジャーメ(金曜のモスク)」「ハージュ橋」「スイ・オ・セ橋(33橋)」「チェヘル・ソトゥーン宮殿」へ 昼食後「イマーム広場」へ「マスジェド・シェイフ・ロトゥフオッラ」「マスジェド・イマーム」「アーリ・ガープルー宮殿」へと 彫刻やタイルの美しさは立派なものだ。

イマーム広場の回廊は「バザール」絨毯、金細工などいろいろなものを売っている。

最終日はテヘランへまた何時間も走る。途中「アブヤーネ村」「カシャーンのフィン庭園」を見て、18時ころ「テヘラン ホーム」空港に到着した。

飛行機は19時55分発 予定とおり出発し、北京経由して12時すぎ無事、成田国際空港着。伊丹行きは16時50分発までJALのラウンジで過ごした。無事18時15分 伊丹着。

イラン(ペルシャ)という国、日本ではすごく印象が悪い。イラクと間違えている人もいる。行ってみると前の印象と全く違う。イランの人たちは友好的であり 街には緑と水がたくさんありとても砂漠の中にあるとは思えない。高い山(富士山より高い)には雪があり その雪解け水があちこちに出ている。農業も盛んで自給自足を目指しているとのこと。

石油は生産するが精製設備が少ないのでガソリンは輸入している。車は自国で生産 フランス車(ブジョー)が多かった。経済制裁のためか日本製品、アメリカ製品は極めて少ない。

無線関係は、アマチュア用と思われるアンテナは見なかった。VHF用の3段の折り返しダイポールがビルの屋上の細いタワー(自立ではなくステー型)に取り付けている。

携帯電話はGSM方式で道路上ならどこでも通話圏内でした。



イラン考古学博物館 紀元前 の金細工



ノンアルコールビール
(レモン味のビールだが甘いレモンジュースだった)



テヘランのホテルの近くのビルの屋上にあつた
アンテナ (Y型ダイポール) 何用?



テヘラン郊外の道路の近くのビルの屋上にあつた
アンテナ 何用?

大阪国際交流センター・ラジオクラブ
J13ZAG Osaka i-House Radio Club

シャッター・チャンス

JA 3A OP/杉山 暁



ごろごろとTaxing・・・
 いよいよスタート 頭上のエンジンは唸りを上げ
 芝生を滑走、あっという間に浮いた
 急上昇！！ 飛んだ 飛んだ
 爽快！！ 疾風！ ポロシャツ1枚と
 半ズボンで受ける風・・・
 むき出しの足の下に広がる景色。
 痛快なり 痛快なり！

Airventure1999に参加したときの一枚です。
 EAAのインストラクターに乗せて貰ったUltra Light Plane、
 左は私、右は教官の足です。乗った機体はパイプ組みと
 キャンパス翼の機体とむき出しエンジン、風防も無い。最も
 プリミティブなタイプ、この爽快さは忘れられない。

AirventureはEAA(Experimental Aircraft Association)が開催する
 飛行機野郎の大祭典です。 <http://www.eaa.org/>
 EAAは アメリカ Wisconsin州 Oshkosh市にベースを置くスポーツ・
 アピエーションを支援する大組織です。 青少年の育成にも熱心で
 Young Eagles プロジェクトはライト飛行 100年に合わせて12歳から
 18歳の青少年 100万人を操縦桿を操作できるように育成するプロ
 ジェクトを2003年に達成し現在ではyoung Eagles は154万人を超え
 ています。

今年も Airventure 2010は26 July - 1 Aug.に
 開催されます。 飛行機で飛んでくる人、キャン
 ピングカーの人、猛烈な数の飛行機と人々が
 世界中から・・・
 到底書きつくせません。 次のURLをどうぞ・・・

<http://www.airventure.org/>
http://www.airventure.org/about/spirit_video.html



TAKE OFF !
 急上昇
 眼下には夥しい
 数の飛行機が



コントロール・タワーの指示で
 take off 地点へtaxing



目の前のパイプは頭上の
 エンジンと翼を支える支柱

コントロール・タワー、拡声器で指示、
 次々と離陸する機の紹介も